

里山と政策 分科会

テーマ：里山保全の可能性を探る

主旨：

農業や林業において、後継者の不足や高齢化、産業構造の変化による木材価格の低下、食生活の変化による米消費量の減少など様々な社会的変化があります。これらを背景として、耕作放棄や生産調整によって田んぼを含む里山の一部は荒廃しているところも多くなってきました。私たちの身の回りから自然が失われていく一方で、豊かで多様性に富む里山の自然は、貴重な動植物の生息空間であると同時に、存在そのものが現代人の癒しであり、子どもたちの心をはぐくむ上でも大切であるといわれています。

荒廃する里山の保全にあたっては、農家の方々の努力だけではもう手に負えなくなっており、行政・市民・研究者が手を携えて各々の問題として主体的に取り組む必要が叫ばれております。

本分科会では、里山の保全のための政策提言をしていきたいと考えておりますが、まず、農家の方々のお考えお聞きし、さらに農業振興・食糧自給の支えとなっている**農地法**について学び、市民農園制度の運用など、現状の中で各主体に何ができ、どのように連携をとっていく必要があるのかを探っていきたいと考えております。

スケジュール

10:00～10:40 代表挨拶、副知事によるお話

分科会

10:40～11:10 主旨説明、自己紹介（アイスブレイキング）
11:10～11:40 農地法のお話
11:40～12:00 田んぼの市民農園の実践事例（所英亮氏）
12:00～13:00 昼食、交流
13:00～13:30 市民農園（設置目的と事例）大江靖雄氏
13:30～14:35 山崎新市氏から、専業農家としてのお話
大地の会職員から、消費者と生産者をつなぐお話
意見交換、質疑応答
14:35～14:40 まとめ
15:00～16:30 全体会、知事との対話

お話しくださる方

大江靖雄氏（千葉大学園芸学部教授）・・・市民農園（設置目的と事例・・・練馬方式ほか）
山崎新市氏（佐倉市小竹の専業農家）・・・専業農家として
所英亮氏（元多古町農業委員会会長）・・・田んぼの市民農園の実践事例
岩井 洋（千葉県農林水産部農地課）・・・農地法の話
戎谷徹也氏（大地の会職員）・・・消費者と生産者をつなぐ

メンバー：

分科会名 政策分科会
代表 小西由希子
副代表 久保 浩
記録係 柳沼薫（写真）、南川忠男、柳沢吉則
実行委員 小西由希子、久保浩、小野鈴子、柳沢吉則、柳沼薫、南川忠男、成田茂子、佐々木典子